

「入日本化」で国技後世に

大相撲

日本相撲協会の第三者会議「大相撲の継承発展を考える有識者会議」が、提言書をまとめた。2019年から議論が続けてきた「国技」の将来像について、「神事に由来する伝統・精神・技法を守る」という方向性を示した。

提言書では、外国出身力士が活躍する現状を「多国籍化」、大相撲の文化と慣習に外国出身力士がなじんで受け入れることを「入日本化」と表現。同じく日本固有の武道である柔道と剣道と比較して検討した結果、五輪競技として国際化へ進んだ柔道ではなく、日本の伝統文化として海外への普及を図った剣道と同じ

方向性を目指すべきだとした。

【会議の委員(敬称略)】
山内昌之(歴史学者)、阿刀田高(作家)、紺野美沙(子(女優)、松本白鸚(歌舞伎俳優)、王貞治(プロ野球・ソフトバンク会長)、大谷剛彦(元最高裁判事)、但木敬一(弁護士)



委員の主な意見

ア	◆紺野委員 両国でお相撲さんとする 違ひ、鬘付け油の香りをか いだけで胸がときめくほ ど、大相撲が好き。長い歴 史と伝統に培われた「男の 世界」に魅力を感じる。女 性が立ち入れない厳格な部 分も保ち続けてほしい。独 自の文化を守り続けるから こそ希少価値を生む。
イ	◆松本委員 「歌舞伎俳優は職人では ないか」と思うようになっ た。大相撲の世界も同様の ことが言える。膨大な稽古 の量と密度を積んでこそ、 相撲道を理解でき、本物の 相撲人になれる。歌舞伎も 大相撲も、職人と呼ぶべき 領域に到達することが求め られている。
ウ	◆王委員 硬式ボールが当たった時 の痛さを知る人でなければ、 野球の世界を語ることが できない。同じく厳しい 稽古の本当の限界は、大相 撲で鍛えた力士たちにはか 分らない。楽な勝ち方は ない。勇気をふるう、恐怖 心に打ち勝つ、根気よく自 分を鍛えて戦うしかない。



「柔道」と「剣道」を比較して検討した、とあります。中学の体育で剣道や柔道を習うのも、日本の伝統文化を学ぶためです。

- 1 大相撲が今後、同じような道を歩むべきだと提言された競技は何ですか。

剣道

新聞の「見出し」は、記事の中の1番大切な言葉を抜き出して作ります。それぞれの委員の発言から、キーワードが見つけれられましたか。

- 2 委員の主な意見について、ア～ウにあてはまる見出しを右の□から選び、番号を書きましょう。

ア ②	イ ③	ウ ①
-----	-----	-----

- ① 本当の限界 力士だけが知る
② 独自の文化 希少価値生む
③ 職人の領域 稽古で到達
④ 誇るべき文化 海外評価高く

- 3 提言書についての説明として、適切なものを全て選び、番号を書きましょう。

- ① 多国籍化に対応するために、海外の文化も取り入れていくべきだと提案した。
② スポーツや芸能など相撲以外の分野から委員を集め、約2年かけて話し合った。
③ 伝統を厳格に守るならば、女性と外国出身者は受け入れるべきではないとした。
④ 海外との関わり方で異なる道を選んだ武道を参考に、今後の方向性を示した。
⑤ 大相撲のファンが減った原因を探り、稽古量が足りないからだだと結論づけた。

記事の最後の【会議の委員】を見ると、様々な分野で活躍する人たちの意見を聞いたことが分かります。

② ④

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

三味線、箏 継承ピンチ

文化

三味線や箏などの邦楽器の継承がピンチに立たされている。演奏する人が減り続ける中で、生産需要も長期にわたって低迷。さらに最近では、コロナ禍による公演の中止・縮小も追い打ちをかける。文化庁は、邦楽器が歌舞伎などの伝統芸能にも欠かせないことから、年間約3億円の予算を組んで支援に乗り出すという。

演奏家や生産が減少 文化庁対策へ

邦楽器とは、日本で伝統的に演奏されてきた楽器を指し、一般には「和楽器」とも呼ばれる。箏や琵琶のような弦楽器、尺八に代表される管楽器など、さまざまな種類があるが、そのほとんどが演奏者の減少に悩まされている。

文化庁によると、代表的な邦楽器の三味線はプロの演奏家が1987年に約2万5600人いたが、2020年には約1万2600人に半減。それに伴って販売数も減っており、1980年の約1万8000丁が2017年には2割以下の3400丁に落ち込んでいる。

部活に貸し出し

「若い世代が演奏しなくなったことが最大の要因」。そう話すのは、全国邦楽器組合連合会の光安慶太理事長だ。

光安理事長によると、1960～70年代の高度経済成長期には、教養の一環として邦楽器を習う子どもも多かったが、習い事や趣味が多様化するにつれて減っていった。そのため、邦楽器の愛好家は高齢化が進み、将



販売数が落ち込んでいる箏（左）と三味線（20日、東京都の向山楽器店で）



来の展望が開けずに廃業する生産者も多いという。

こうした苦境を踏まえ、文化庁は今年度から、三味線や箏などを買い上げ、高校や大学の部活・サークルに無償で貸し出す取り組みを始める。価格の高さがネックとなり、邦楽器に触れるきっかけを逃したり、続け

られなくなったりする若者を支援し、将来の需要増につなげる狙いがある。

文化庁の担当者は「若い人たちに興味を持ってもらうことで、演奏家が増え、邦楽器の需要も伸びるといい流れを生み出していきたい」としている。



うれしい支援 文化庁の支援策は、邦楽器を貸してもらう側にとってもありがたいよね。そこで質問。みんなが「うちの学校や部活に、こんな支援をしてくれないかな……」と思っていることはある？ 理由も一緒に教えて！ 投稿はアプリ「Yteen」から。

（2021年4月23日 読売中高生新聞より）



日本の伝統文化を守り、受け継いでいくにはどうしたらよいか。

私たちの知恵も問われています。



学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握	精査・解釈		
		ア	イ	ウ	エ
設 問	1	○			
	2		○		
	3		○		